



# コレクターの熱意の賜物

「土器」、「日用工芸品」、「織物」の三つの博物館からなる

総合的な工芸博物館は、

インド各地の日常の暮らしを伝えつつ、衰退する伝統工芸の継承を目指す



土器博物館。州ごとの特徴がわかる



コテージと野外劇場。芸能公演も可能



博物館群の入口。素焼の馬がお出迎え

インドの博物館は国立や公立のものより私的な財団が設立・運営しているものが断然個性的で興味深い。ニューデリーの郊外にひっそりと建つサンスクリティ博物館群もその一例である。この博物館群は、公益法人「サンスクリティ財団」の本拠である緑豊かなセンターの中にある。

## 日用品の技と美

「サンスクリティ」はヒンディー語で一般に文化を意味する。財団はインドの伝統的な手工芸文化の保護や振興を目的に多彩な活動を続けてお

## 個人コレクションの博物館

この博物館の展示品は、もとはデリー在住のある裕福な商人の個人コレクションだった。彼は若いころからインドの工芸品の美しさに魅せられ、商用で訪れる先々でコレクションを進めてきたという。

やがて彼の熱意と優れた鑑賞眼は他のコレクターや研究者の知るところとなった。そういった周囲のすすめもあって彼は今から二〇年ほど前に私財を投じて財団をつくり、博物館を設立した。開館や館の運営には

り、博物館群はそれに見合うように「土器」、「日用工芸品」、「織物」の三つの博物館からなっている。

一つ一つの博物館はさほど大きくないが、生活に根ざした技と美がわかる品々をシンプルに展示しており、訪れた者を飽きさせない。

その特徴をよく表しているのが日用工芸品博物館である。ここには家庭の祭壇に祭る神像からはじまって、筆記用具、煙草を吸う道具、台所用品、壺類、クシと化粧道具、玩具など全部で一七のコーナーを設けている。多様な日用品の展示をとおして、インドの人びとの日常の暮らしを伝えている。

各コーナーには、さまざまな地域から集められたコレクションが展示されているので、類似の日用品の地域差もわかる仕組みである。人びとの日用品への愛着や職人の丹念な仕事ぶりが伝わってくる。日用品だけをこれほど多数展示している博物館は、インドではあまり見当たらない。

これらの研究者や友人たちも積極的に協力している。

こうしてインドでは珍しい総合的な工芸博物館が誕生したのである。

## 伝統工芸の新たな継承へ

サンスクリティ財団は、工芸の担い手の保護や育成にも熱心だ。毎年各分野の優れた職人に奨励賞を授与するほか、インド内外から職人やアーティストを招いてワークショップを開き、技術の国際交流もおこなっている。センター内にある瀟洒なコテージは、ワークショップ

## 三尾 稔

民博 研究戦略センター

インド西部を主なフィールドにして、宗教と文化の動態をテーマに研究している。最近は民衆文化と信仰の関係や、その継承と変化に関心がある。



女性用のクシと髪飾りの展示

プ参加者が寝食をとるにしながら交流できる場でもある。

財団は最近、子どもたちへの教育にも力を入れ、伝統工芸への理解を広げようとしている。カースト間で異なる職業の技には互いに無関心だったうえ、祭司や武人、農民に比べると手工芸職人の地位が低かったインドでは、このような試みはとて

も新しい。一コレクターの熱意からはじまった博物館は、経済発展のかけで衰退が目立つ伝統工芸をあらたなかたちで継承させる拠点にもなっている。